

第 16 回山陽小野田市地域公共交通会議

議事録

平成 30 年 1 月 12 日（金）

3. 協議事項

(1) 市内バス路線の再編について

発言者	発言要旨
協議事項「市内バス路線の再編について」	
委員	今回の再編が実施されると、路線によっては乗継が増えることになるが、乗継の際の料金についてどのように考えているか。1 日乗車券や、J R も利用できる定期券等は検討しているか。
事務局	乗継が増えることによって現状の料金よりも高くなることのないよう、乗継割引や 1 日乗車券も含めて検討していきたい。また、J R と共通で利用できる体制についても、相互利用ができるかどうか J R と検討を行っているところである。
委員	厚狭駅とおのだサンパークをつなぐピストンバスを運行してほしい。
事務局	この区間は幹線に含まれているため、現状の路線バスで対応できると考えている。
委員	これまでもニーズ調査はやってきたと思うが、またさらにやる必要があるのか。
事務局	大まかなニーズはある程度把握しているが、今後は専門家の意見をもらいながら、持続可能な交通手段を具体的に検討していきたいと考えている。
委員	「再編に向けてのスケジュール案」の中に交通手段の検討とあるが、検討項目は決まっているのか。
事務局	デマンド交通であっても、地域の人口や運行日数等によって適する車両の大きさや運行形態は異なるため、具体的な検討項目が必要であると考えている。また、地域によっては乗合タクシーにしたり、タクシーの利用助成などの手法も考えられる。
委員	スケジュール案の中では平成 31 年度から実証運行の開始となっているが、市民感覚からすると遅いように感じる。運行開始を早めて、運行しながら地域のニーズに合わせていくということとはできないか。
事務局	検討の上、早くできるものに関しては予定を早めて実証運行をしたいと考えている。できる限り要望に沿った形で進めていきたい。

委 員	新規・代替交通手段が検討されているエリアにおいて、幹線への結節点は決まっているか。
事 務 局	いくつかの候補は考えられるが、決定はしていない。
委 員	市外では住民タクシーを取り入れている地域もあるようだが、デマンド交通以外の手段も検討候補には入るのか。
事 務 局	本市においても、地域からやってみたいという声があれば大変ありがたいが、市からの投げかけはできていない状況である。
副 会 長	再編方針をみると、幹線が弱く、幹線につなげてもその先の目的地につながる担保がされていない印象を受ける。デマンド交通が成功する要因として、行き先が明確かつ結節点として機能しているかということが挙げられる。 定時定路線を維持し幹線を強くすることと、幹線への効果的な結節点を決めることが必要なのではないか。
事 務 局	運行本数から言うと、小野田駅から公園通までの区間は幹線としての役割を果たせていると考えている。また、主な結節点として小野田駅、厚狭駅、おのだサンパークがあるが、この他の結節点に関しては施設整備を含めた検討が必要である。
協議事項「地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について」	
質疑なし（承認）	
閉 会	